

2018年春闘宣言

2018年春闘に臨むにあたって、まず私たちがどうなりたいのかを考えてみました。

やはり、良い仲間と良い賃金・労働条件で、楽しく仕事ができることではないでしょうか。

出版労連は2018年3月15日に結成60周年を迎えます。現在の私たちの賃金・労働条件は、この60年の粘り強い労働組合のとりくみによる成果です。2018年春闘でも、職場、企業別労働組合、産業別労働組合、地域労働組合の垣根を越えて、皆で同じゴールに向かって団結して、さらに進んでいきましょう。

引き続き、出版関連産業は大きな転換期にあります。この転換期の中で、苦難を強いられている仲間がいます。厳しい雇用条件と地域の最低賃金にはりついた賃金で、取次の現場に働く非正規の仲間。企業が買収され、経営側から一方的に異動を命じられ、たたかっている仲間。賃金や一時金、労働条件の引き下げ、評価・査定制度に直面する仲間。私たちが共に求めるのは、人間らしい仕事や生活を成り立たせることのできる賃金・労働条件です。なにより働く私たちに元気がなければ、当然、良い仕事はできず、業績を上げることはさらに難しいでしょう。

長時間労働問題では、出版関連産業だけでなく、記憶に新しい電通やNHKでの事件、最近ではトラック運送業界、医療現場でも問題になっており、健康に人間らしく働くという当たり前の権利が脅かされています。

仕事で健康を害してしまうのは、誰でも嫌ですよ？

ましてや仕事で命をおとすことなど、絶対にあってはならないことです。

長時間労働については、統一要求基準に照らして36協定を見直し、遵守させることで、業務量の調整を含め、是正を求めていきましょう。そして、あらためて働きがいのある人間らしい仕事、ディーセントワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を、職場から経営へ、経営から産業、そして社会へと広げ、残業代ゼロ制度（いわゆる高度プロフェSSIONAL制度）や裁量労働制の拡大ではなく、働く者＝私たち自身の手で、働く者本位の本当の意味での働き方改革を実現しましょう。

パート、アルバイトなど非正規雇用労働者の無期転換、その一方での雇い止めの問題、派遣労働問題、企業内最賃1500円と均等待遇の実現、メンタルヘルスケア、ハラスメントのない職場づくり、LGBTなどすべての人が働きやすい職場づくり、継続雇用制度の充実と定年延長、この春闘でも多くの課題があります。有給休暇、看護休暇、介護休暇の権利獲得、行使についても課題としている職場が増えています。そして、出版関連産業の基盤である言論・出版・表現の自由を守り、憲法の改悪を阻止するたたかいは、なによりも重要です。

職場で今まさに問題になっていることを、切実な気持ちでどれだけ苦しいかを経営側に伝え、話し合う。

春闘は問題を表面化し共有するチャンスです！

春闘は問題を解決するチャンスなのです！

春闘では声を大にして要求する場です！

この春闘での私たちのとりくみは、働きがいのある人間らしい仕事のできる雇用を増やしていくため、そして出版関連産業の基盤である言論・出版・表現の自由を守り、憲法の改悪を阻止するため、とても重要なものなのです。

2018年春闘でも、みんなで団結し、粘り強く、一歩ずつ前進していきましょう。

2018年2月16日
日本出版労働組合連合会
第130回臨時大会